S-Net/GBIFデータ提供関連資料

― 概要編 ―

2026年7月改訂版

はじめに	2
地球規模生物多様性情報機構	3
日本生物多様性情報イニシアチブ	4
サイエンスミュージアムネット	5
S-Netに登録されているデータ	6
メタデータ登録票の入力項目と各サイトの画面表示の対応	8
データ利用条件の設定	9
S-Netの自然史標本データ形式（S-Net形式）	10
データ提供の流れ（書類提出）	11
データ提供の流れ（S-Net形式データ作成）	12
S-Net項目一覧	15

はじめに
—生物多様性情報（データ）が世界へ届く仕組み—

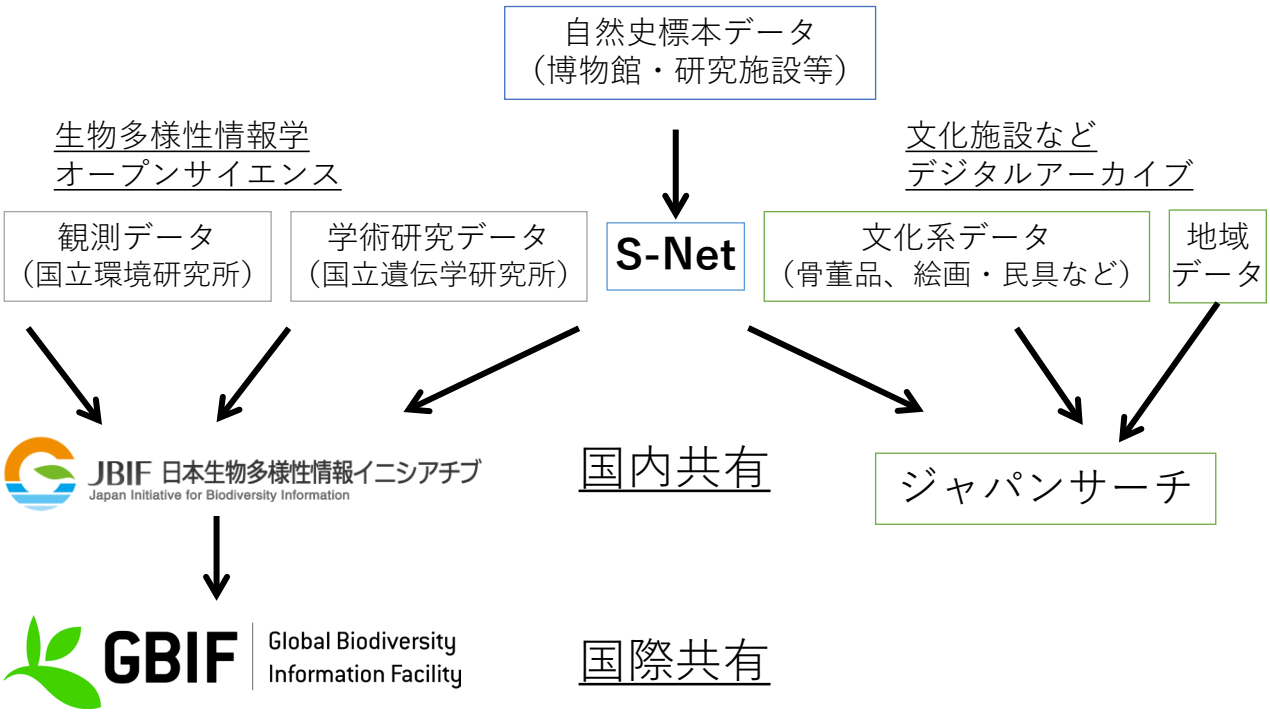
生物多様性情報（データ）は、標本、種名、観察記録などから構成され、学術研究や環境政策を支える重要な基盤となっています。これらの情報を国際的に共有・利活用するための基盤として、GBIF（地球規模生物多様性情報機構）※1が広く活用されています。

日本では、JBIF（日本生物多様性情報イニシアチブ）※2が、GBIFに関する国内の活動を担っています。国立科学博物館・国立環境研究所・国立遺伝学研究所の3機関が連携して、自然史標本データや観測データの整備と公開を進めています。

また国立科学博物館はS-Net（サイエンスミュージアムネット、通称S-Net）※3を運営し、国内の博物館や研究機関が保有する自然史標本データを収集・公開しています。

それぞれの機関が扱っているデータ
・国立科学博物館（科博）：自然史標本データ
・国立環境研究所（国環研）：観測データ
・国立遺伝学研究所（遺伝研）：学術研究データ

これらのデータは、遺伝研および科博のサーバを通してGBIFへ提供されています。



※1：詳細は3ページ、※2：詳細は4ページ、※3：詳細は5ページ
・**オープンサイエンス**：研究成果や研究データを適切に公開・共有し、研究者だけでなく社会全体が広く利用・再利用できるようにする取組や考え方。
・**自然史標本データ**：博物館や大学などに収蔵されている動物、植物、菌類、化石などの標本について、学名、採集地、採集日、所蔵機関などの情報を記録したデータ。
・**観測データ**：野外調査や市民参加型調査、カメラトラップなどにより、生物がいつ、どこで確認されたかを記録したデータ。通常、標本の採集・保存を伴わず、人または機器による観測結果に基づく。
・**学術研究データ**：ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）が提供する生物資源を利用して行われた研究の成果に関するデータ。研究論文のタイトル、著者、掲載誌、発表年、DOI、使用された生物資源などの情報が含まれる。
・**デジタルアーカイブ**：標本、文書、画像などの資料とその情報をデジタル化して継続的に保存し、インターネット等を通じて検索・閲覧・活用できるようにする仕組み。
・**ジャパンサーチ**：博物館、美術館、図書館、公文書館などが公開する、幅広い分野のデジタル資料をまとめて検索・閲覧・活用できる国のプラットフォーム。

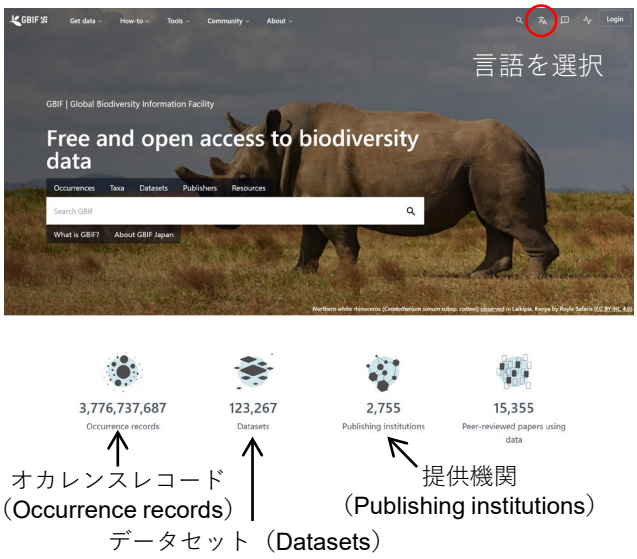
地球規模生物多様性情報機構
Global Biodiversity Information Facility

GBIF（地球規模生物多様性情報機構）は、地球上のあらゆる種類の生物に関するデータを誰でも、どこからでも利用できるように、オープンアクセスで提供することを目的として、各国政府からの資金（拠出金）によって運営されている国際的なネットワークであり、データ基盤です。

GBIFでは、世界中の生物多様性データを、国際標準（ダーウィン・コア）に基づく共通のデータ形式で集約・統合し、横断的に検索・利用できるようにしています。公開されるデータの中核となるのは「ある生物が、いつ、どこで確認・採集されたか」を示す記録、すなわちオカレンスデータです。GBIFが収集するオカレンスデータには、博物館等が所蔵する生物標本（化石を含む）、研究者の研究や市民参加型調査に基づく記録などが含まれます。

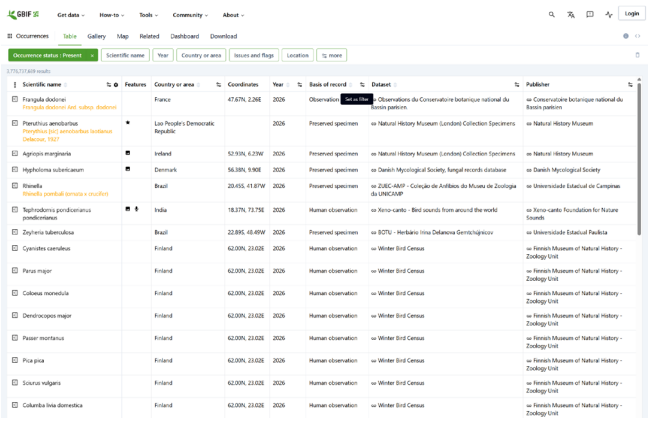
また、GBIFではオカレンスデータに加えて、ある地域や分類群の網羅的な種名目録（チェックリスト）、調査イベントを中心に、調査方法や調査努力量の情報とともに生物の出現情報を記録するサンプリングイベントデータも公開しています。これらのデータは、生物の分布やその変化の把握、生物多様性研究、環境政策、保全活動などに幅広く活用されています。

現在利用できる情報は...約37億件！※



GBIFトップページ（https://www.gbif.org/）

GBIF事務局（デンマーク）



オカレンスレコードの検索結果

メニューや見出しなどから順次、日本語化を進めています。詳しくは、以下のウェブページを参照してください。
（https://www.gbif.org/ja/）

オカレンスレコード、データセットなどをクリックすると対象の全オカレンスレコードが検索できます。
左側のプルダウンメニューの項目（学名、場所など）によって絞り込みができます。

※2026年7月現在
・ダーウィン・コア（Darwin Core）：標本、観察記録、分類群、採集場所などの生物多様性情報を、異なる機関や情報システムの間で共有するために、項目名とその意味を定めた国際標準。

日本生物多様性情報イニシアチブ
Japan Initiative for Biodiversity Information

JBIFは、GBIFに関する日本国内での活動を実施する組織です。日本国内の生物多様性に関するデータの活用を促進するとともに、GBIFを通じて世界へ発信することを目的として活動しており、生物多様性情報分野における国内での普及活動にも取り組んでいます。

JBIFは、2007年より文部科学省（2015年度から2020年度までは日本医療研究開発機構）によるナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）「情報センター整備プログラム」の一課題として構築・運用されています。現在は、国立遺伝学研究所、国立環境研究所および国立科学博物館の3機関が連携して事業を実施しています。

日本は発足当初からGBIFに正式参加しており、JBIFは「GBIF日本ノード」として国内活動を担ってきました。しかし、2021年に日本のGBIFへの参加形態がオブザーバへ変更されたことに伴い、「日本生物多様性情報イニシアチブ（JBIF）」へ名称を変更し、現在も活動を継続しています。

GBIF関係の資料の一部の和訳を公開しています

GBIFデータを日本語で検索できます

GBIFに関する資料がまとめられています

学名の表記ゆれを確認することができます

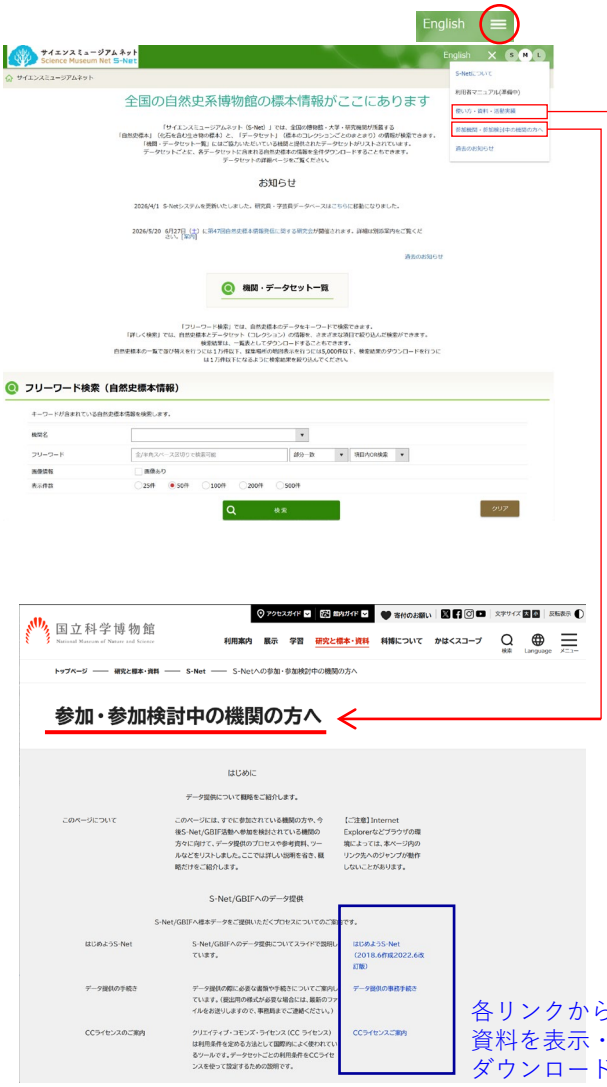
・**ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）**：ライフサイエンス研究の基盤となる動物、植物、微生物、細胞、遺伝子材料などの生物資源を、体系的に収集・保存・提供することを目的とした文部科学省のプロジェクト。
・**オブザーバ：**GBIFの活動に関心を持ち、活動の状況を継続的に把握する国や組織に認められる立場。GBIFの運営には携われない。

サイエンスミュージアムネット
（通称　S-Net<エスネット>）

サイエンスミュージアムネット（S-Net）は、全国の博物館・大学・研究機関が所蔵する「自然史標本」（化石を含む生物標本）のデータを収集して国内外へ公開するウェブサイト※です。

S-Netでは、「どこに、どのような自然史標本があるのか」を横断的に検索することができます。各機関から提供された自然史標本情報は、S-NetやGBIFなどのウェブサイトを通じてインターネット上で公開されており、各機関が定めたライセンスに従って、誰でも利用できます。

S-Net公開データ数（2026年7月現在）
（130機関・511データセット・820万件）

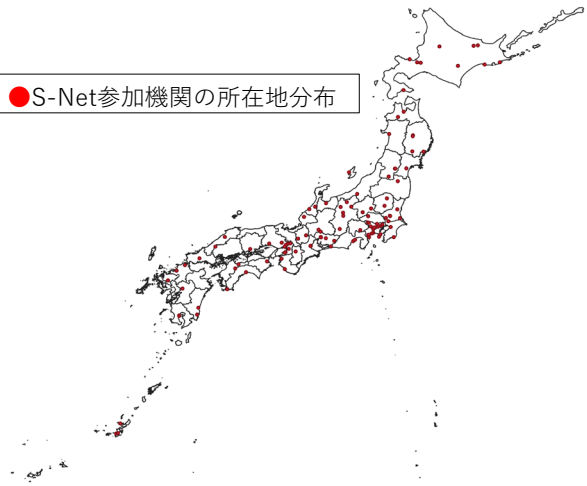


各リンクから資料を表示・ダウンロードできます。

参加・参加検討中の機関の方へ

- S-Net/GBIFへのデータ提供
- S-Netシステムについて
- ツール・辞書
- データ入力のためのヒント

●S-Net参加機関の所在地分布



各リンクから資料を表示・ダウンロードできます。

使い方・資料・活動実績

- S-Netの使い方
- S-Net/GBIFのデータ活用事例
- パンフレット等
- 21世紀の生物多様性研究ワークショップ（GBIFワークショップ）
- 自然史標本データ研究会（S-Net研究会）

https://science-net.kahaku.go.jp/

※このほか、博物館等に所属する研究員や学芸員の情報を集めたデータベースも公開しています。また、データ公開の支援、講義や実習形式の研究会なども実施しています。

S-Netに登録されているデータ

S-Netのデータ構成

S-Netで管理する自然史標本情報は、個々の標本に関する「自然史標本データ」と、それらのデータについて説明する「メタデータ」から構成されます。メタデータには、データを提供する博物館や大学などに関する「機関情報」（機関名、所在地など）と、公開するデータのまとまりであるデータセットに関する「データセット情報」（データセットの名称、自然史標本データの利用ライセンスなど）が含まれます。

1. 自然史標本データの基本構成

自然史標本データはオカレンスデータであり、基本となるのは「いつ・どこで・どのような生物が確認されたか」という情報です。また、自然史標本データの場合には、その標本が収蔵されている機関の情報や、各機関で標本に与えられた固有の番号も重要です。さらに、採集した個体の状態や採集方法などの情報も加えることができます※。

S-Netサイトにおける自然史標本情報の詳細画面の表示例

※詳細や項目の一覧は10ページ以降をご覧ください。

S-Netに登録されているデータ

2. メタデータ

S-Netでは、自然史標本データは「データセット」とよばれる「かたまり」ごとに管理されます。データセットは、「○○博物館○○類コレクション」「○○氏寄贈コレクション」など、データの管理や入力を行った単位として機関が定め、データセットごとにメタデータを入力します。これを利用して、利用者が収蔵機関名やコレクション名で検索したり、問い合わせ先や利用条件を確認したりすることができます。

詳細や確認・登録のために必要な手続きは事務手続き編の『メタデータ登録票記載のお願い』と『【様式2】メタデータ登録票』をご確認ください。

変換ツールに入力する項目

変換ツール※の入力画面
図中の番号は、変換ツールの各入力項目に対応しています。

S-Netサイトにおけるメタデータの詳細画面の表示例

※提出データをS-Net形式に変換するツール。機関情報やデータセット情報などを入力する際に確認する項目がデータセット詳細表示画面に記載されています。詳細は「マニュアル編」を参照してください。

メタデータ登録票の入力項目と各サイトの画面表示の対応

S-Netデータセットの画面

GBIFデータセットの画面

【様式2】 **メタデータ登録票**

入力年月日： 年 月 日

機関情報

	項目	入力欄
1	機関名(日本語)	国立科学博物館(動物)
2	機関名(英語)	National Museum of Nature and Science
3	機関コード	NSMT
4	機関の日本語サイトURL	http://www.kahaku.go.jp/
5	機関の英語サイトURL	http://www.kahaku.go.jp/english/

データセット情報

	項目	入力例
6	データセットのタイトル(日本語)	チョウ目コレクション
7	データセットのタイトル(英語)	Lepidoptera collection of National Museum of Nature and Science
8	コレクションコード	I-L
9	内容(日本語)	国立科学博物館動物研究部が所蔵する鱗翅目標本
10	内容(英語)	Lepidoptera specimens deposited at the Department of Zoology, National Museum of Nature and Science
11	データセットの日本語サイトURL	http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/
12	データセットの英語サイトURL	http://db.kahaku.go.jp/webmuseum_en/
13	キーワード(日本語)	鱗翅目, 分類学, 多様性, 分布
14	キーワード(英語)	Lepidoptera, taxonomy, diversity, distribution
15	ライセンス	CC BY
16	担当者名(名:日本語)	宇佃
17	担当者名(姓:日本語)	神保
18	担当者名(名:英語)	Utsugi
19	担当者名(姓:英語)	Jinbo
20	担当者肩書き(日本語)	研究主幹
21	担当者肩書き(英語)	Senior Curator
22	担当者メールアドレス	ujinbo@kahaku.go.jp
23	技術担当者名(名:日本語)	宇佃
24	技術担当者名(姓:日本語)	神保
25	技術担当者名(名:英語)	Utsugi
26	技術担当者名(姓:英語)	Jinbo
27	技術担当者肩書き(日本語)	研究主幹
28	技術担当者肩書き(英語)	Senior Curator
29	技術担当者メールアドレス	ujinbo@kahaku.go.jp

英語の情報は、GBIFのデータセット情報として公表されます

JBIF標本・観察システムの画面

現在、S-Netではメタデータ登録票の「3. 機関コード」と「8. コレクションコード」を組み合わせたものを、各データセットを指し示す「データセット略号」として使用しています。

・**機関コード**：博物館、大学、研究機関などの標本所蔵機関を、データ上で識別するために使用する短い英数字等のコード。
・**コレクションコード**：一つの機関が所蔵する複数の標本群、すなわちコレクションを、それぞれ区別してデータ上で識別するために使用するコード。

データ利用条件の設定

1.データの利用条件

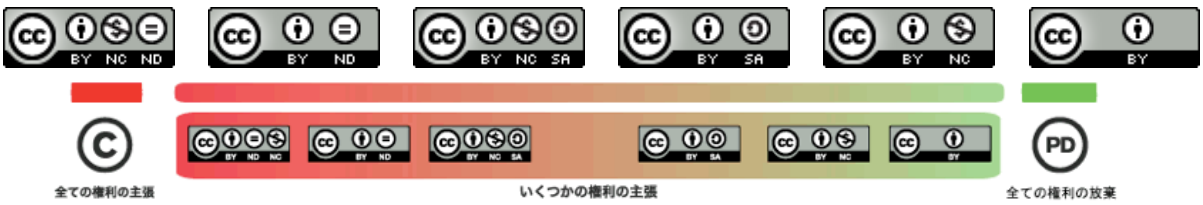
データの利用条件とは、データをどのようなルールで利用できるかを、著作権者等が示すものです。データ利用に関するライセンスは、その条件に従った利用をあらかじめ許可する法的な仕組みです。代表的なライセンスとして、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CCライセンス）があります。国際的な非営利組織Creative Commonsが提供するもので、利用条件を標準化して示すことで、提供者と利用者の双方がデータを共有・利用しやすくなります。

2. CCライセンスとパブリック・ドメイン

CCライセンスでは、利用条件を名称とアイコンによって簡潔に示すことができます。これにより、商用利用の可否などの条件を、利用者が視覚的かつ迅速に把握できるようになっています。CCライセンスと関連して、保護期間の満了などにより著作権が消滅している作品はパブリック・ドメイン（PD）といいます。また、CC0は権利者が著作権などを法的に可能な限り放棄し、条件を付けずに利用できるようにする仕組みです。

ｱｲｺﾝ	表示	意味
	BY（表示）	作品を創作した人（著作者）の作品に関する情報（出典）を表示
	NC（非営利）	営利目的で利用してはならない
	ND（改変禁止）	作品を改変しない（その作品の全部または一部をそのまま利用）
	SA（継承）	再利用の際には、同じCCライセンス条件を継承する

【例】・CC BY：出典を表示すれば自由に利用可能
・CC BY-NC：出典表示・非営利利用のみ
・CC BY-SA：出典表示・改変した場合は、同じライセンスでの公開が必須



（アイコンの出典：クリエイティブ・コモンズ・ジャパン）

なお、CCライセンスもCC0も、著作者の名誉や信用を不当に害したりする行為まで認めるものではありません。著作者人格権やプライバシー権など、CCの対象外となる権利や一般の法令は引き続き適用されます。また、出典表示はCC0では利用条件とされませんが、研究利用等では、情報源を明らかにするために出典を示すことが推奨されます。

3. 生物多様性情報における利用条件

標本データをはじめとするオカレンスデータに含まれる「いつ」「何が」といった事実そのものは、一般に、著作権の保護対象にはなりません。ただし、説明文やデータベース全体などは、著作権その他の権利の対象となる場合があります。このため、データを円滑に利用できるよう、利用条件を明示することが重要です。

★生物多様性情報の公開には、再利用しやすい「CC0」または「CC BY」が広く推奨されています

GBIFでは、データの利用条件として、データセットごとにCC0、CC BY、CC BY-NCのいずれかを設定するようデータ提供者に求めています※。S-NetでもGBIFと同じ三つの選択肢を採用し、参加機関にデータを提供いただく際に、これらの中から利用条件を選択いただいております。S-NetからGBIFへ提供されるデータには、S-Netで選択された利用条件が引き継がれます。

※GBIFで選択できるライセンスは、正確には、CC0 1.0、CC BY 4.0またはCC BY-NC 4.0となります。
詳細は、事務手続き編『データ利用条件設定へのご協力のお願い』と『【様式3】データ利用権回答書』をご確認ください。.

S-Netの自然史標本データ形式（S-Net形式）

S-Netのデータ形式は、Darwin Coreに準拠しているGBIFのデータ形式をもとにしているので、S-Net用に整備した標本データは、GBIFのデータ形式と互換性をもっています。

1. S-Net形式の概要

S-Netのデータ形式は、GBIFのデータ形式をもとに、日本国内で利用しやすいよう、「国」と「国（日本語）」のように、各項目を日本語でも入力できるようにした構成になっています。

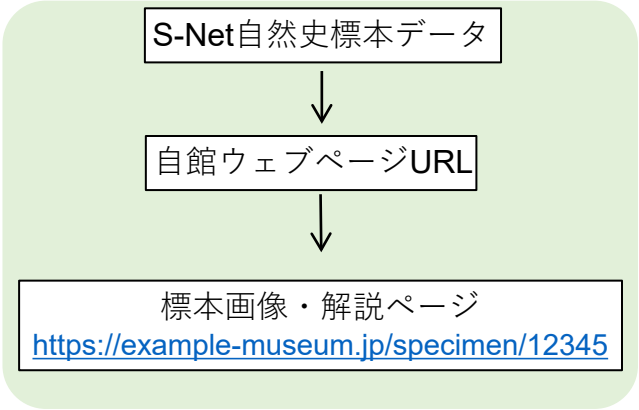
2. S-Netのデータ項目

S-Net形式には、150項目があります。これを利用して、標本の管理番号や「なにが・いつ・どこにいたのか」という基本的な情報から、雌雄・生活史型・採集方法などの追加的な情報、化石やタイプ標本に固有の情報までをカバーしています。ただし、入力が必須な項目はごくわずかですので、すべての項目をもれなく入力する必要はありません。

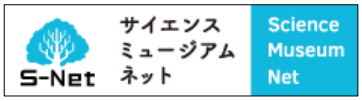
各機関が独自に作成・管理している自然史標本データは、**データ変換ツール**を利用することで、簡単にS-Net形式へ変換できます。
変換ツールについては、変換ツールマニュアル編を参照してください。

3. 画像・ウェブページとの連携

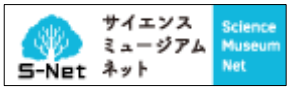
S-Netでは画像ファイルそのものは登録できませんが、自館で公開しているウェブページや画像へのリンクを設定できます。今後、各画像の詳細なデータ（タイトル、著作権者、ライセンスなど）を入力する機能を整備していく予定です。



ウェブページへリンクする際には、S-Netのバナーもご利用ください。



[234×60 3 KB]



[140×40 2 KB]

4. データ作成時の注意点

①入力形式を統一する
　→データ項目ごとに、S-Net項目一覧（15－20ページ）参照し、入力形式や記載方法を確認してください。
② データ作成のポイント
　→Excel等で自館データを作成する際は、変換ツール（マニュアル編）のマッピング機能を利用してS-Netの項目名と一致する項目名を使用してください。
③ 入力に迷ったとき
　→各項目の入力方法は、S-Net項目一覧（15－20ページ） の「値（Value）」欄を参照してください。
④ 必須項目について
　→必須項目に入力できない場合は、「- (半角ﾊｲﾌﾝ)」または「－（全角ハイフン）」を入力してください。
※詳細は「マニュアル編」を参照してください

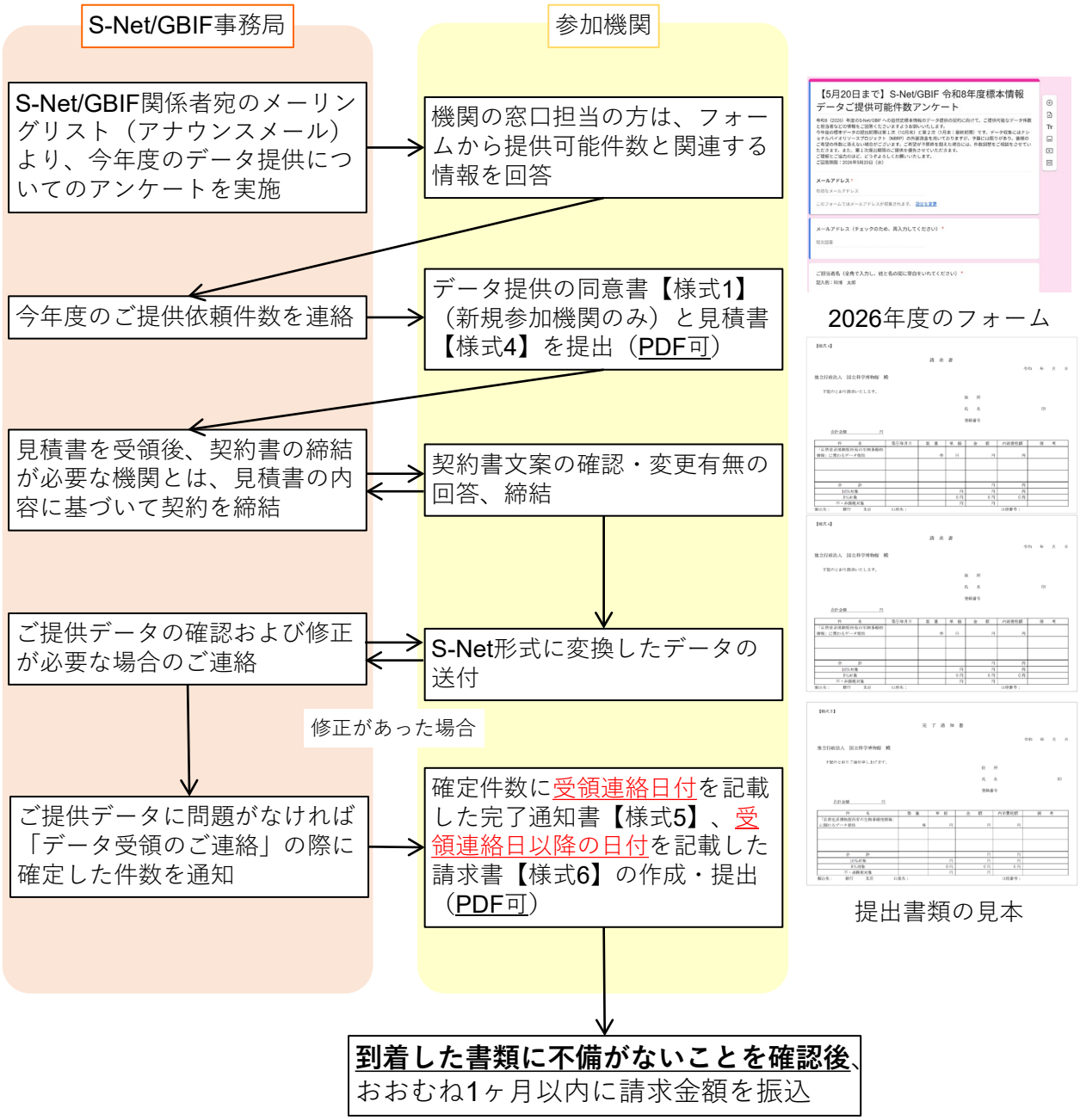
・**タイプ標本**：生物の学名を適用する際に基準とされた標本または標本群。ホロタイプ、レクトタイプ、ネオタイプなどの種類がある。

データ提供の流れ（書類提出）

データ提供の概要

独立行政法人国立科学博物館は、文部科学省の令和8年度研究開発施設共用等促進費補助金（ナショナルバイオリソースプロジェクト：NBRP）を受け、「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」を実施しています。本事業の一環として、当館はGBIF（地球規模生物多様性情報機構）における日本の活動拠点の一機関として、参加機関が保有する標本資料の所在情報等を国際標準形式に変換し、GBIFを通じて集約・公開しています。また、その成果を活用し、国内データベースであるサイエンスミュージアムネット（S-Net）の整備・拡充にも取り組んでいます。

以下に、S-Net/GBIFデータ提供に関する事務手続きの流れを示します。



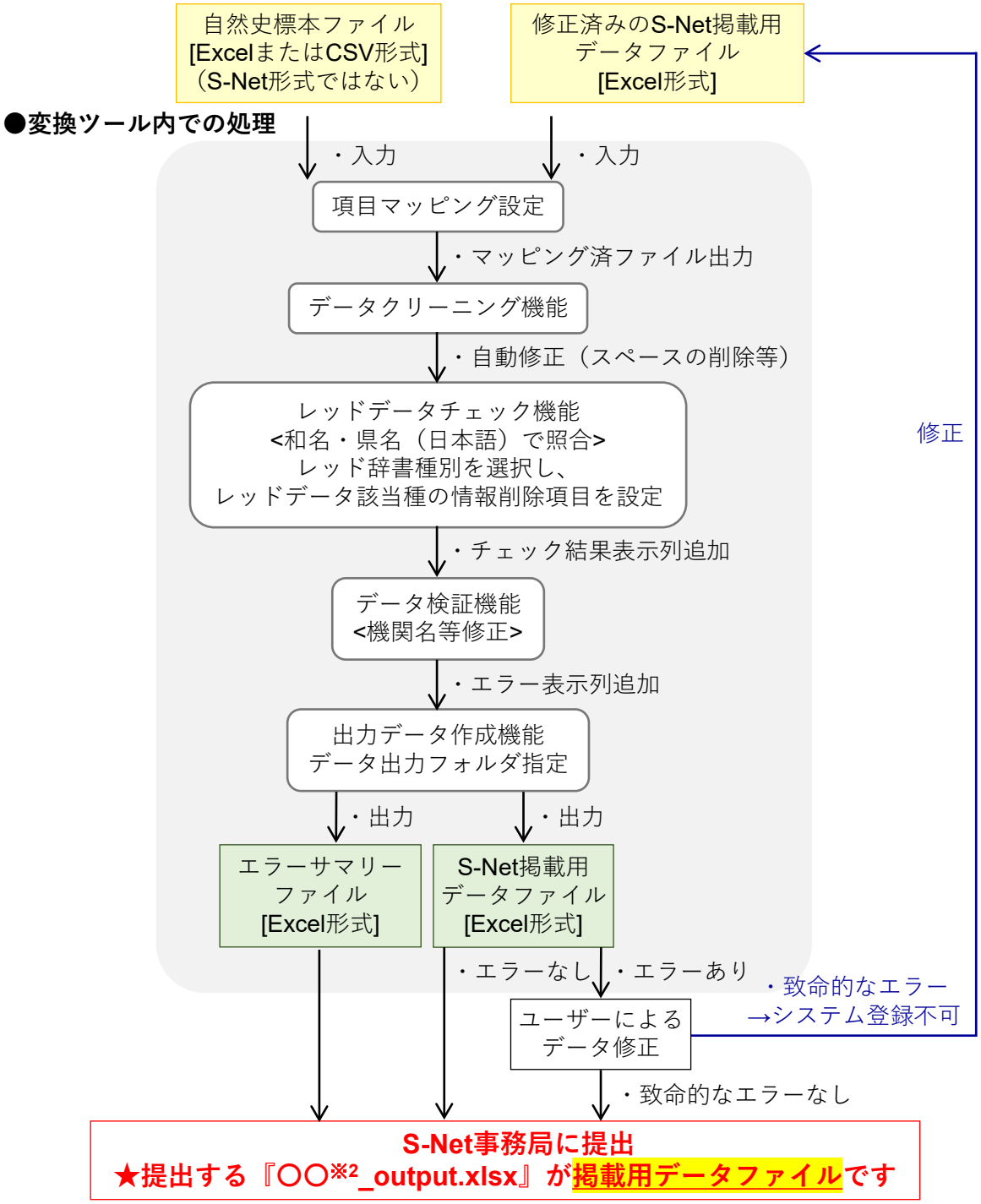
※詳細・提出書類の様式は事務手続き編をご確認ください。

データ提供の流れ（S-Net形式データ作成）

データ変換ツール※1を用いて、自館のデータをS-Net形式へ変換し、エラー等を修正のうえ提出します。提出されたデータは事務局にて確認を行い、問題がなければデータの受領完了となります。変換ツールの詳細な使用方法は、「マニュアル編」をご確認ください。

1. S-Net掲載用データファイルの作成

データ変換ツールを用いて、提供予定の自館データを入力ファイルとして指定し、S-Net掲載用データファイルを作成します。

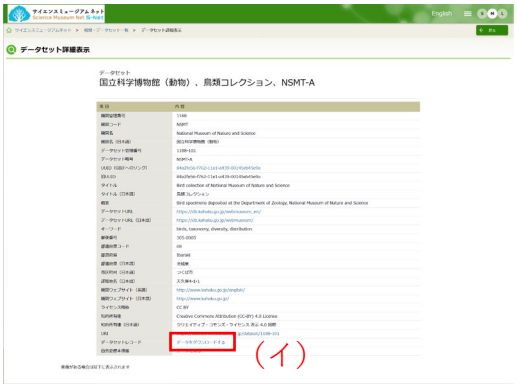


※1 データ変換ツールのマニュアルとプログラムは S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」からダウンロードできます。詳しい使い方は「マニュアル編」を参照してください。
※2 任意のファイル名で問題ありません。
・**データクリーニング**：表記ゆれや不要な空白などを修正し、データを整える作業。
・**データ検証**：データの形式や内容が規則に適合しているか確認する作業。
・**マッピング済ファイル**：自館項目とS-Net項目を対応付けた後の出力ファイル。
・**レッド辞書**：レッドリスト等との照合に使用する辞書データ。

2. 受付チェック
提出されたS-Net形式のデータは、以下の3点について事務局で確認を行います。

①変換ツールでのチェック
事務局でも、再度変換ツールを用いてデータにエラーがないかを確認します。

②重複チェック
提出予定のデータについて、既にS-Netで公開されている自館データとも照合し、カタログ番号（標本番号）の重複がないことを確認します。
S-Netトップページ（ア）「機関・データセット一覧」→（イ）該当データセットを選択し、自館のデータセット情報をダウンロードできます。



③規制種のチェック
提供データの中に法律で規制されている種が含まれていないかを確認します。以下の表を参考にします。

ID	分布	科名	属名	種小名	著者	和名
植物						
1	帰化	アサ科	Cannabis	sativa	L.	アサ
2	栽培	ケシ科	Papaver	somniferum	L.	ケシ
3	帰化			setigerum	DC.	アツミゲシ
4	帰化			somniferum subsp. setigerum	(DC.) Arcang.	アツミゲシ
菌類						
1	国内	モエギタケ科	Psilocybe	argentipes	K. Yokoyama	ヒカゲシビレタケ
2	国内			cubensis	(Earle) Sing.	ミナミシビレタケ
3	国内			fasciata	Hongo	アイセンボンタケ
4	国内			lonchophorus	(B. et Br.) Horak et Guzman	ヤブシビレタケ
5	国内			subaeruginascens	Honel	オオシビレタケ
6	国内			subcaerulipes	Hongo	アイゾメシバフタケ
7	国内			venenata	(Imai) Imazeki et Hongo	シビレタケ
8	国内	ヒトヨタケ科	Copelandia	cyanescens	(Berk. et Br.) Sing.	アイゾメヒカゲタケ
9	国内		Panaeolus	papilionaceus	(Bull. :Fr.) Quel.	ワライタケ
10	国内			sphinctrinus	(Fr.) Quel.	ヒカゲタケ
11	国内			subbalteatus	(Berl. et Br.) Sacc.	センボンサイギョウガサ
12	海外	モエギタケ科	Psilocybe	subcubensis	Guzman	なし
13	海外			tampanensis	Guzman et Pollock	なし

【表：規制種リスト】

3. 事務局での確認事項と対応
①－③で確認事項等があった場合、データをお返しするとともに修正を依頼いたします。
やりとりにお時間をいただく場合がございますので、できるだけ不備がないことをご確認のうえ、掲載用データをお送りください。
①－③の問題がなければ、データ受領完了のご連絡をいたします。
その後【様式5】完了通知書と【様式6】請求書を発行いたします。

※新規機関・新規データセット登録の機関は、別途以下の書類も必要となります。
【様式2】メタデータ登録票
【様式3】データ利用権回答書

詳細は事務手続き編に記載しておりますので、併せてご確認ください。

★【超重要】データ提出★

S-Net/GBIF事務局に提出するのはExcel形式の『**S-Net掲載用データファイル**』と『**エラーサマリーファイル**』です。

1. S-Net掲載用データファイル
ファイル名を「〇〇_output.xlsx」として保存します（〇〇は任意のファイル名）。
提出ファイルがそのまま掲載されます。S-Net形式になっているか、レッドデータ該当種が削除されているかを確認してください。

2. エラーサマリー
エラーサマリーファイル「〇〇_error_summary.xlsx」として保存します（〇〇は任意のファイル名）。本ファイルは、データセットごとのチェック結果を一覧にしたシートです。内容をご確認のうえ、必要に応じてデータの修正またはコメントの追加を行い、S-Net掲載用データファイルとともにお送りください。

S-Net項目一覧

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
システム管理情報						
1	管理ID	自動採番型	8	○	システム管理用項目。入力・編集は不要です。	
2	データセット管理番号	文字型	8	○	システム管理用項目。入力・編集は不要です。	
3	グローバルユニーク番号	文字型			システム管理用項目。入力・編集は不要です。	occurrenceID
4	旧システム登録日時	文字型			システム管理用項目。入力・編集は不要です。	
5	旧システム最終更新日時	文字型			システム管理用項目。入力・編集は不要です。	
6	GBIF公開フラグ	コード型	公開/非公開	○		
7	ジャパンサーチ公開フラグ	コード型	公開/非公開	○		
基本情報						
8	レコード種別	コード型		○	PreservedSpecimen、FossilSpecimen、LivingSpecimen、HumanObservation、MaterialSampleから選択	basisOfRecord
9	機関コード	辞書型		○	検索から自動入力	institutionCode
10	機関名	辞書型		○	検索から自動入力	
11	機関名（日本語）	辞書型		○	検索から自動入力	
12	コレクションコード	文字型		○	標本のコレクションコード（例：VS、F、AL、I-L）。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる	collectionCode
13	カタログ番号	文字型・半	20	○	標本番号（例：153801、A1 0027）	catalogNumber
オカレンス情報						
14	採集者番号	文字型・半			採集者によるオリジナルの標本番号	recordNumber
15	オカレンス備考	文字型			標本等に関する補足説明（例：found dead on the road）	occurrenceRemarks
16	オカレンス備考（日本語）	文字型			標本等に関する補足説明（例：路上轢死体）	
17	性別	文字型・半			例：male, female	sex
18	性別（日本語）	文字型			例：オス、メス、♂、♀	
19	生活型・世代型	文字型・半			個体のライフステージ（例：juvenile, adult, sporophyte）	lifeStage
20	生活型・世代型（日本語）	文字型			例：幼虫、成虫、胞子体	
21	成熟状況	文字型・半			例：pregnant, in bloom, fruit-bearing	reproductiveCondition
22	成熟状況（日本語）	文字型			例：妊娠中、開花中、結実中	
23	行動	文字型・半			採集時の個体の振る舞い（例：roosting, foraging, running）	behavior
24	行動（日本語）	文字型			例：ねぐらに滞在, 摂食中, 走っていた	
25	生息環境	文字型・半			例：oak savanna, pre-cordilleran steppe	habitat
26	生息環境（日本語）	文字型			例：ブナ林、海岸林	
27	個体群成立過程	文字型・半			例：native, introduced, invasive, naturalised, managed	establishmentMeans
28	個体群成立過程（日本語）	文字型			例：土着、外来、侵略的外来、帰化、栽培、植栽	
29	処理・保存情報	文字型・半			例：fossil, cast, skin, spirit collection	preparations
30	処理・保存情報（日本語）	文字型			例：化石、皮革、骨格、液浸	
31	カタログ旧番号・別番号	文字型・半			標本番号をつけ直す場合、以前の標本番号	otherCatalogNumbers
32	画像への外部リンク	URLのみ			ウェブ公開されている当該標本の画像自体へのリンク（URL）。直接リンク可能な場合のみ入力	associatedMedia

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
33	参照リンク	URLのみ			ウェブ公開されている当該標本情報の英語ページへのリンク（URL）	references
34	参照リンク（日本語）	URLのみ			ウェブ公開されている当該標本情報の日本語ページへのリンク（URL）	
35	文献	文字型			当該標本に関する文献などの外国語資料（当該種に関するものではない）	associatedReferences
36	文献（日本語）	文字型			当該標本に関する文献などの日本語資料（当該種に関するものではない）	
37	塩基配列	文字型・半			DNAシークエンスのDDBJ等へのアクセッション番号	associatedSequences
38	関連分類群（ホスト情報等）	文字型			寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：Fagus crenata）	associatedTaxa
39	関連分類群（ホスト情報等）（日本語）	文字型			寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：ブナ）	
40	過去の同定結果	文字型			過去の同定による学名。標本ラベルに書かれている学名が現在の学名と異なる場合などに記入	previousIdentifications
41	過去の同定結果（日本語）	文字型			過去の同定による和名。標本ラベルに書かれている和名が現在の和名と異なる場合などに記入	
42	サンプリング方法	文字型			例：UV light trap, mist net	samplingProtocol
43	サンプリング方法（日本語）	文字型			例：UVライトトラップ、マレーズトラップ	
44	記録年月日（始め）	あいまい日付	8		記録年月日（始め）をYYYYMMDD形式の8桁で指定（例：20140501）。不明な箇所は**で埋めて8桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も*に（例：********）、月が不明の場合は日も*に（例：1924****）。採集期間が1日だけの場合、記録年月日（始め）に入れる	eventDate
45	記録年月日（終わり）	あいまい日付	8		記録年月日（終わり）をYYYYMMDD形式の8桁で指定（例：20140531）。不明な箇所は**で埋めて8桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も*に（例：********）、月が不明の場合は日も*に（例：1924****）	
46	記録年月日オリジナル表記	文字型			記録年月日をラベルに書いてある通りに書き下したもの（例：明治26年1月23日、1926年12月、Feb 30, 1906、7.vii.1964）	verbatimEventDate
47	記録年月日に関する備考	文字型			記録年月日に関するコメント・特定方法等（例：after the recent rains the river is nearly at flood stage）	eventRemarks
48	記録年月日に関する備考（日本語）	文字型			記録年月日に関するコメント・特定方法等（例：宅地造成に先立って調査した）	
					位置情報	
49	大陸	文字型・半			例：Africa, Antarctica, Asia, Oceania	continent
50	大陸（日本語）	文字型			例：アフリカ、南極、アジア、オセアニア	
51	水域	文字型			例：Indian Ocean, Baltic Sea, Hudson River	waterBody
52	水域（日本語）	文字型			例：インド洋、バルト海、ハドソン川	
53	島群	文字型			例：Alexander Archipelago	islandGroup
54	島群（日本語）	文字型			例：アレキサンダー諸島	
55	島	文字型			例：Isla Victoria	island
56	島（日本語）	文字型			例：ビクトリア島	

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
57	国	文字型		○	例：Japan 公海上や採集国が不明の場合は「-（半角ハイフン）」を入力。	country
58	国（日本語）	文字型		○	例：日本 公海上や採集国が不明の場合は「-（半角ハイフン）」を入力。	
59	国地域コード	文字型・半	2		国名のID。日本はJP。ISO 3166-1 alpha-2 country codes（https://www.iso.org/iso/country_codes）に従うことが推奨される	
60	都道府県	文字型			例：Tokyo, Ibaraki, Kyotoのように、複数都道府県をまたぐ場合は「/（半角スラッシュ）」で区切って指定。 例：Yamanashi/Kanagawa	stateProvince
61	都道府県（日本語）	文字型			例：東京都、茨城県、京都府のように、複数都道府県をまたぐ場合は「／（全角スラッシュ）」で区切って指定 例：山梨県／神奈川県	
62	郡・市区町村	文字型			例：Saitama	county
63	郡・市区町村（日本語）	文字型			例：さいたま市	
64	詳細地名	文字型				locality
65	詳細地名（日本語）	文字型			例：南区辻一丁目	
66	地名オリジナル表記	文字型			地名のラベル表記をそのまま書き下したもの（例：浦和市辻町一丁目（合併前の旧住所）、武蔵国）	verbatimLocality
67	最低海抜	数値型			メートル単位の数値（例：200, 2.25）。海抜に範囲がない場合、最低海抜だけに入れるか、最低海抜と最高海抜の両方に同じ値を入れる	minimumElevationInMeters
68	最高海抜	数値型			メートル単位の数値（例：400, 10.2）。最低海抜≦最高海抜となること	maximumElevationInMeters
69	最浅水深	数値型			メートル単位の数値（例：10, 1.5）。-（マイナス）は付けない。水深に範囲がない場合、最浅水深だけを入れるか、最浅水深と最深水深に同じ値を入れる	minimumDepthInMeters
70	最深水深	数値型			メートル単位の数値（例：20, 4.22）。-（マイナス）は付けない。最浅水深≦最深水深となること	maximumDepthInMeters
71	メッシュコード	文字型・半	8		二次あるいは三次メッシュコード（ハイフンを除いて表記）（例：544020、54402078）	
72	緯度（十進数表記）	数値型	20		正の値は北半球（北緯）、負の値は南半球（南緯）。-90以上、90以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ20－46の範囲	decimalLatitude
73	経度（十進数表記）	数値型	20		正の値は東半球（東経）、負の値は西半球（西経）。-180 以上、180 以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ123－154の範囲	decimalLongitude
74	測地系	文字型			例：WGS84、EPSG:4326、Tokyo、Tokyo Datum。緯度・経度が旧測地系（日本測地系）の場合はTokyoまたはTokyo Datumを指定	geodeticDatum
75	緯度経度誤差半径	数値型			緯度経度の誤差。誤差を中心からの円の大きさで表した時の半径（m）。地名やメッシュコードより推定した場合は地図上の誤差、GPSで測定した場合は機器の精度を用いて指定	coordinateUncertaintyInMeters
76	緯度経度特定に関する備考	文字型			標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：assumed distance by road （Hwy. 101）））	georeferenceRemarks
77	緯度経度特定に関する備考（日本語）	文字型			標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：国道の位置から推定；オンライン地図を利用して推定；メッシュコードより推定；GPSにて測定）	
78	非公開情報に関する備考	文字型			公開制限している情報に関する追記（例：location information not given for endangered species）	informationWithheld
79	非公開情報に関する備考（日本語）	文字型			公開制限している情報に関する追記（例：絶滅危惧種につき地名非表示；採集地保護のため地名非表示）	

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
80	位置情報に関する備考	文字型			例：Under water since 2005	locationRemarks
81	位置情報に関する備考（日本語）	文字型			例：2005に水没	
82	緯度経度の入力有無	コード型		○	あり・なし	
					分類情報	
83	タイプ標本種別	文字型・半	20		Allolectotype, Alloneotype, Allotype, Cotype, Epitype, Exepitype, Exholotype, Exisotype, Exlectotype, Exneotype, Exparatype, Exsyntype, Extype, Hapantotype, Holotype, Iconotype, Isolectotype, Isoneotype, Isosyntype, Isotype, Lectotype, Neotype, Notatype, OriginalMaterial, Paralectotype, Paraneotype, Paratype, Plastoholotype, Plastoisotype, Plastolectotype, Plastoneotype, Plastoparatype, Plastosyntype, Plastotype, Secondarytype, Supplementarytype, Syntype, Topotype, Typeのいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力	typeStatus
84	タクソンID	文字型・半			当面使用しない	
85	学名	文字型		○	該当標本の学名のフルスペル。属も不明の場合は、同定できた一番下の階級（目名、科名など）を書く（例：Aspergillus oryzae、Fagus sp.、Cornaceae、Coleoptera、Anas zonorhyncha x A. platyrhynchos）。雑種式は半角小文字のx（エックス）を使用	scientificName
86	界名（学名）	文字型・半	20	○	Viruses、Bacteria、Archaea、Protozoa、Chromista、Plantae、Fungi、Animaliaのいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力	kingdom
87	界名（日本語名）	文字型	20	○	ウイルス界、真正細菌界、古細菌界、原生生物界、クロミスタ界、植物界、菌界、動物界のいずれか。全角文字で正確に入力	
88	門名（学名）	文字型・半				phylum
89	門名（日本語名）	文字型				
90	綱名（学名）	文字型・半				class
91	綱名（日本語名）	文字型				
92	目名（学名）	文字型・半				order
93	目名（日本語名）	文字型				
94	科名（学名）	文字型				family
95	科名（日本語名）	文字型				
96	属名（学名）	文字型				genus
97	属名（日本語名）	文字型				
98	亜属名（学名）	文字型				subgenus
99	亜属名（日本語名）	文字型				
100	種小名	文字型				specificEpithet
101	亜種以下のタクソン	文字型			亜種、変種、品種などの学名。ランク自体（subspecies, variety等）は「分類群ランク」に書く。複数ある場合には最も下位のランクを書く	infraspecificEpithet
102	分類群ランク	文字型			学名（Scientific Name）に入力された分類群名の分類ランク（例：family, species, variety）	taxonRank
103	学名の著者	文字型			学名の著者	scientificNameAuthorship

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
104	和名	文字型			標準和名をひとつだけ示す（例：ベニテングタケ、ナナホシキンカメムシ、イヌブナ、カルガモ×マガモ）。雑種式は全角の×（掛け算記号）を使用	vernacularName
105	同定に関する補足情報	文字型			未同定の場合、近縁種等の情報を書く（例：cf. Homona magnanima）	identificationQualifier
106	同定に関する補足情報（日本語）	文字型			未同定の場合、近縁種等の情報を書く（例：チャハマキに近縁な別種）	
107	分類群に関する備考	文字型			生物分類名に関する補足情報（例：this name is a misspelling in common use）	taxonRemarks
108	分類群に関する備考（日本語）	文字型			生物分類名に関する補足情報（例：広く使われている誤った綴りの学名）	
	参考情報					
109	備考	文字型				
	古生物情報					
110	上限の推定年代（累代・累界レベル）	文字型・半			例：Phanerozoic, Proterozoic	earliestEonOrLowestEonothem
111	上限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）	文字型			例：顕生代、原生代	
112	下限の推定年代（累代・累界レベル）	文字型・半			例：Phanerozoic, Proterozoic	latestEonOrHighestEonothem
113	下限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）	文字型			例：顕生代、原生代	
114	上限の推定年代（代・界レベル）	文字型・半			例：Cenozoic, Mesozoic	earliestEraOrLowestErathem
115	上限の推定年代（代・界レベル）（日本語）	文字型			例：新生代、中生代	
116	下限の推定年代（代・界レベル）	文字型・半			例：Cenozoic, Mesozoic	latestEraOrHighestErathem
117	下限の推定年代（代・界レベル）（日本語）	文字型			例：新生代、中生代	
118	上限の推定年代（紀・系レベル）	文字型・半			例：Neogene, Tertiary, Quaternary	earliestPeriodOrLowestSystem
119	上限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）	文字型			例：新第三紀、第三紀、第四紀	
120	下限の推定年代（紀・系レベル）	文字型・半			例：Neogene, Tertiary, Quaternary	latestPeriodOrHighestSystem
121	下限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）	文字型			例：新第三紀、第三紀、第四紀	
122	上限の推定年代（世・統レベル）	文字型・半			例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series	earliestEpochOrLowestSeries
123	上限の推定年代（世・統レベル）（日本語）	文字型			例：完新世、更新世	
124	下限の推定年代（世・統レベル）	文字型・半			例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series	latestEpochOrHighestSeries
125	下限の推定年代（世・統レベル）（日本語）	文字型			例：完新世、更新世	
126	上限の推定年代（階・期レベル）	文字型・半			例：Atlantic, Boreal, Skullrockian	earliestAgeOrLowestStage
127	上限の推定年代（階・期レベル）（日本語）	文字型				

	項目表示名	項目型	入力制限	必須項目	値	GBIF公開項目
128	下限の推定年代（階・期レベル）	文字型・半			例：Atlantic, Boreal, Skullrockian	latestAgeOrHighestStage
129	下限の推定年代（階・期レベル）（日本語）	文字型				
130	生層序帯（最下位）	文字型・半				lowestBiostratigraphicZone
131	生層序帯（最下位）（日本語）	文字型				
132	生層序帯（最上位）	文字型・半				highestBiostratigraphicZone
133	生層序帯（最上位）（日本語）	文字型				
134	岩相層序名	文字型・半				lithostratigraphicTerms
135	岩相層序名（日本語）	文字型				
136	層群	文字型・半				group
137	層群（日本語）	文字型				
138	層	文字型・半			Ex.: Notch Peak Formation, House Limestone, Fillmore Formation	formation
139	層（日本語）	文字型				
140	部層	文字型・半			Ex.: Lava Dam Member, Hellnmaria Member	member
141	部層（日本語）	文字型				
142	単層	文字型・半				bed
143	単層（日本語）	文字型				
命名情報						
144	オリジナルの学名	文字型			原記載での学名の綴り	originalNameUsage
145	原記載	文字型			原記載の文献情報（例：Pearson O. P., and M. I. Christie. 1985. Historia Natural, 5（37）: 388）	namePublishedIn
146	原記載出版年	文字型・半			例：1931、2018	namePublishedInYear
147	オリジナルの分類群ランク	文字型・半			原記載における学名の分類ランク（例：species, variety）	verbatimTaxonRank
148	命名規約	文字型・半			学名が基づいている命名規約（例：ICN、ICZN）	nomenclaturalCode
149	分類学的ステータス	文字型・半			学名の分類学的解釈における扱い（例：accepted, heterotypic synonym, misapplied）	taxonomicStatus
150	命名規約上のステータス	文字型・半			学名の命名規約上の扱い（例：ambigua, illegitimum）	nomenclaturalStatus